

文教厚生常任委員会記録

日 時 令和6年4月24日（水曜日）14時39分～15時03分

場 所 議員控室

出席者 阿部委員長、磯野副委員長、平山委員、舟見委員、村上委員、村田議長
濱野教育長、葛西学校管理課長、佐々木学校管理課主幹、田口建築係長
ワグナー 小寺議員、金木議員、逢坂議員、佐藤議員

事務局 渡辺局長、嶋元係長

阿部委員長

それでは、総務産業常任委員会終了後ということでお疲れのことかと思いますが、ただいまから文教厚生常任委員会を開催したいと思います。

本日の議題は、天売複合施設についてとなります。

教育長が出席されておりますので、教育長からの挨拶いただいてから担当課長の説明を受けて質疑に入りたいと思いますので、よろしく願いいたします。

1 天売複合施設について

担当課説明

説明員 濱野教育長、葛西学校管理課長

濱野教育長 14:40～14:41

皆さん、こんにちは。お疲れのところありがとうございます。天売複合施設についてですけれども、前回3月の委員会ときには入札不成立のご説明をいたしました。今回は、不成立の原因を考慮して、基礎工事の設計を変更したいというふうに考えております。それに伴いまして工期の延長というのも出てまいりますので、どうかひとつご審議をよろしく願いいたします。

葛西課長 14:41～14:48

それでは、私のほうから天売複合施設に係る進捗状況についてということで、資料に沿って説明させていただきます。座ったままで失礼させていただきます。

まず、1点目、確認の意味でこれまでの経過について説明させていただきますけれども、昨年10月に入札の公募を開始しまして、何度か延長した中で本年1月に1社から申

込みがありましたが、3月にその参加者の辞退ということで入札が不成立となっております。その後再度入札に向けた検討を行いまして、現在に至っております。今回その検討の中で工法の一部変更とスケジュールの延長という方向性といえますか、検討結果が出まして、情報共有の必要が生じたということで説明の機会を設けさせていただいたところであります。

次に、項番、資料の2番になります。工事内容の変更についてであります。当初の計画では基礎工事においてはコンクリートの打設により実施することを想定しておりましたが、今回検討した結果、この工法を変更しまして、プレキャスト工法という方法に変更したいというふうに考えております。このプレキャスト工法といいますのは、建物の基礎ですとか壁などを構成するコンクリート部材を運搬可能な程度の一定の大きさに工場生産しまして、出来上がったコンクリート部材を現地まで運んで、そこで組み合わせるといようなやり方になります。変更の理由であります。これまでは基礎工事を実施するに当たりましては市街で生コンをミキサー車に積み込んで、フェリーに乗せて現地まで運搬して、そこで流し込んで固めるというような工法を想定しておりました。しかしながら、基礎工事に必要な生コンの量が、1往復でミキサー車2台もしくは3台をフェリーに積む想定でいきますと、約25から30往復程度の量が必要ということで、悪天候による欠航等考えましたら、生コンの運搬だけで約2か月以上かかる計算になります。これでは島民の皆様の生活に係る物資の輸送ですとか、漁師の皆さんの漁獲物の運搬等に影響を及ぼす可能性が大きいということで、こういったことが課題になりまして、フェリー会社あるいは漁協さん等の聞き取りなどを考慮した中で、優先的に工事車両だとか工事部材等の輸送スペースを確保できるかといったところの調整が難しかったということで、フェリーでの運搬量をできるだけ減らすことができ、なおかつ工場生産することで現地の基礎工事の期間を圧縮するということが見込めるプレキャスト工法という方法に変更したいという考えに至ったところでございます。また、担当としましては、この変更によりまして離島工事の実施のハードルがこれまでよりも少し下がるということで、より入札に参加しやすくなるというふうな考えでおります。

続いて、設計変更に伴う予算額でありますけれども、委託料としまして1,436万6,000円を見込んでおまして、来月7日開催予定の臨時議会で提案を予定しております。本工事に係る実施設計は既に完了しているのですけれども、建物そのものの面積ですとか形、そういったところに変更はないのですけれども、基礎工事の工法を変更することに伴いまして強度等が変わってくるというような理由で全体の建物の構造計算等やり直しの中で再度の設計が必要になってくるということでありますので、今回この設計を実施するものであります。

最後に、項番3つ目、スケジュールの変更についてであります。これまでの計画では可能な限り早く入札を執行しまして、令和6年度の早い段階で契約を締結し、工事着工ということで業務を進めてまいりましたけれども、業者を選定するための入札が既に4か月以上遅れているということですか、あと基礎工事の方法の変更に伴う設計変更業務のほうに一定の期間を要するというようなことも考えまして、令和9年度まで工事期間を延長したいというふうに考えております。変更後の具体のスケジュールですけれども、まず先ほど説明させていただいたとおり、設計変更に伴う予算を5月に提案させていただきまして、その承認をもしいただきましたら、すぐに設計業務に係る契約を締結します。建築確認の申請業務もこの設計業務の中に含まれておりますので、工期は3月まで見込んでいるのですけれども、本工事に係る金額につきましてはおおむね12月ぐらいには確定する予定でありまして、金額が明確となりましたら議会で継続費の補正、それから本年度予算の補正、そういったところ提案させていただきたいというふうに考えておりまして、その後すぐ工事入札の準備を行いまして、遅くとも年度内までには契約を締結しまして、令和7年度から本工事に着工、それから令和9年度完成といったスケジュールで考えております。また、表の下から3行目になります。少しでも令和7年度からの本工事を早く進めるというようにすることを目的に準備工事を本年度から実施する予定であります。内容としましては、建設予定地に生えております樹木の伐採、伐根、それから配水等の切替えの工事になりまして、5月中にはその入札を実施したいというふうに考えておりまして、10月をめどに完了する予定となっております。

なお、このスケジュールにつきましては、今回お示しした内容のとおり進めるということで町長部局と協力した中で全力で取り組みたいというふうには思っているのですけれども、プレキャスト工法というこれまであまり前例のない工事というようにあるのと、そういう内容でありますから、設計が通常の工事の設計よりも難しいというように聞いております。そのほか、離島の工事ということで、入札そのものの難しさという部分での課題は残っているというふうに思っておりますので、施工業者が決まって、本当に工事の工程が確定するまでどうしてもこのスケジュールの部分は流動的になりますというところをご理解いただきたいというふうに思います。

私からの説明は以上になります。

阿部委員長

それでは、説明が終わりましたので、ただいまから質疑に入りたいと思います。質問がある方は挙手にてお願いします。

磯野副委員長 今回の説明の中で参加申込みの1社が出てきて、ただし不成立だったということなのですから、その後協議をして、コンクリート打法からプレキャスト工法に変えたということなのですから、このプレキャスト工法であれば、例えば1社ができるという見通しがあつての協議だったのか、それともこちらで協議して、これだったら何とかという思いだったのか。これ出したときには、例えば今前段にあつた1社はこれだったらできるよという、そういう確定したものがあつたということなのですか。

葛西課長 あくまでも現時点では入札の前ということで、設計業者と相談した中でどういったやり方であれば入札により参加しやすくなるかということなので、そういったところでの相談ということになります。あとは、当然内部のほうでどういったやり方を選べばより参加しやすくなるかということなどをいろんな工法の中で検討した結果、このプレキャストがベストではないかということなので今回こういった説明させていただいたところです。

磯野副委員長 ということは、プレキャストにして募集かけてもひよっとしたらまたないかもしれないという、そういう懸念もあるというふうに理解していいですか。

葛西課長 あくまでも入札になりますので、その可能性は残るというふうには思っております。

磯野副委員長 もう一点、それで設計変更に伴う予算額の増額ということで、実施設計業務委託料が出てくるのですけれども、プレキャスト工法に寄ったことによって全体の建設費というのはどう変わってくるのでしょうか。

葛西課長 今回の段階ではまだ幾ら幾らということは明言できないのですけれども、工法を変えたことによって増額にはなるというようなことは、内部でも技術部門のほうから確認を取って、聞いております。

磯野副委員長 当然億単位だというふうに理解していますが。

葛西課長 金額がどの程度膨らむかというところまでは、現時点ではちょっとまだ把握できない状況であります。

磯野副委員長 このプレキャスト工法、要するにどこかに作ってきたものをはめ込んでいくというものだと思います。そうすると当初言っていた生コンだと工期が1年延ばさないと無理ですよというものが短縮になるというふうにも考えていいのでしょうか。工期そのものの短縮って。

葛西課長 陸地でコンクリートを作るという部分では、その分工期自体も短縮になるのではないかというふうには見込んでおります。

磯野副委員長 そうすると、全体の建設費の中で工期が短縮になる分というのは、減額になるというふうにも理解していいのでしょうか。

葛西課長 その辺は、プレキャスト工法にすることで増額になる部分と工期が短縮になることで減額になるという相殺でどうなるかというところにはなると思うのですけれども、聞いている段階では期間は短くなるのですけれども、総額は増額になるのではないかというような見込みで考えております。

平山委員 今までの説明聞いていて、果たして入札したときに応募してくれる事業所、会社がなかったらまた振出しということになりますよね。何かすごく不安だらけで、島民の人には申し訳ないなという思いもあるのですけれども、先月島民のほうに説明会に行かれています。そのときのちょっと雰囲気というか、教えていただければ。

葛西課長 説明した内容は理解できると。ただ、これまで何度も延長というようなことを聞いているので、可能な限りやはり確実な業者をまず見つけていただいて、早く建ててほしいというようなことは、同じような意見は幾つかもらいました。その中で、そのときもこれから工法の見直しだとか期間の延長も含めて検討していきますという中で期間の延長の可能性は

ありますというようなこともお話しした中で、快くということではないのですけれども、話としては理解しましたということでその場では感じたところであります。

平山委員 島の人たちも駄目ということはいえないでしょうし、かといってこればかりは相手がいることであって、うまくいかなかったらまた流れる可能性もあるかなと思うのですけれども、今の時点ではただただ本当に契約成立していくことだけを私としては願うだけです。担当課の方はご苦労なさっていると思うのですけれども、そういう思いです。

村田議長 まず、このプレキャスト工法という、先ほどの説明では分かるのですけれども、北海道の離島なりって例えば北にもありますし、奥尻島もあるのですけれども、現実にこの工法を使って建てた実績とか、そういうところは北海道にあるのか、逆に言えば本州行ったらあるのか、そこら辺が分からないのが1点と、あとこの中で基礎工事ってうたっているのですけれども、基礎工事だけをこれでやるのか、あと上の壁とか建物自体もこういう形でやるのか、そこら辺はよく分からないので、そこもちょっと説明してもらいたいなと思います。

葛西課長 まず、前段のプレキャスト工法の実績の部分ですけれども、道内でいうと鉄骨、鉄筋の建物の壁部材の部分でこのプレキャスト工法を使ったという実績はあるというふうに聞いています。ただ、本当に基礎工事、建物の基礎の部分でこのプレキャスト工法を使ったという実績はないというふうに聞いております。

それから、あくまでも公開想定しているのは建物の基礎部分で、木造の建物と違って鉄骨のつくりになりますので、床の部分もコンクリートを使うということで、その床の部分もプレキャストというような工法でやることになるというふうに認識しています。

村田議長 今ので下の部分を、今までの中ではそういった建物はないけれども、基礎部分はそういう形でやるという。生コンで運ぶより島民に対しての漁獲物だとか、そういうのに影響少ないって書いてあるのですけれども、できたそういうものは、では何で運ぶ予定なのかもちょっと教えてください。

さい。

葛西課長 プレキャスト工法によって作り込んだ部材を送り込むのですけれども、どうしても部材と部材のつなぎの部分は生コンなので、そこについては生コンが必要になります。ただ、プレキャストの部材については、台船でそれは運ぶというような想定で考えております。

村田議長 何となくどういう形で工事をしていくかというイメージはつかめました。そうすることによって建物そのものの強度だとか、そういう部分もちょっと変わってくるというのも何となく分かりました。それで、12月までには入札をしたいという前段で、今まであったのかわからないけれども、準備工事というのが出てきたのですけれども、この部分に関しては補正を組まなければならないものなのかちょっと、今ここでいくと5月からスタートするような形になっているので、先ほどの設計の業務委託料プラス準備工事の補正も入ってくるの。そこら辺ちょっと教えていただきたいなど。

葛西課長 既に令和6年度予算の中で当初工事予定していた工事請負費で2億3,600万の当初予算があります。なので、準備工事につきましては、その当初予算の中で執行したいというふうに考えております。今回設計の部分は委託料ということで、当初予算に見込んでおりませんので、今回の補正につきましてはその委託料の部分だけ上げさせていただきたいというふうに考えております。

村田議長 最後にもう一点、本来でいくと令和6年から工事ができて、元の工事でいったら3年間ではできないので、令和9年度までかかりますと島に説明をした。今回はこの形でいくと建て出すのは令和7年からでないと建たないという形で、先ほど言ったこのことによって工期がちょっと短くなるので、基本的には令和9年で完成させて、何とか島民の要望に応えるというところは変わっていないということによろしいですか、そこだけは。令和9年度以上、順調にいけば、入札もちゃんとなっていけば、先ほど言った島民に4年間でという話をしている部分は約束としては守れる可能性が十分あるという。答えにくいかな。

葛西課長 今の段階ではそのような目標設定ですし、そこで終わらせたいというふうに考えております。

阿部委員長 ほかございせんか。ありませんか。いいですか。(なし。の声) 私からもちょっと質問させていただきますけれども、プレキャスト工法ということで、なかなか聞き慣れないといいますか、こっちの、この辺のまちでふだん基礎工事ではなかなか聞かない言葉なのかなと思いますけれども、鉄骨の建物の壁とかでもよく使われるということですのでけれども、基礎工事に関しては実績がないということで、なかなかこの工法自体コンクリートの打設に比べると例えば強度がどうなるのかであったりとか、施工するに当たって、ふだん慣れていないとは思いますが、そういった部分での例えば当初見込んでいた工期よりももしかしたら延びてしまうといった、そういった心配もちょっとあるのですけれども、その辺は役場内部のほうではどのように判断しているのかお聞きしたいと思います。

田口係長 何分珍しいというか、そんなに前例のない工事、工法なのですけれども、ただやること自体は現場作業としてはそう難しくはないというふうに考えていますので、どっちかという設計のほうスムーズにいけば現場作業としてはそんなに遅れとかは心配しなくてもいいのではないかなというふうに考えています。

阿部委員長 分かりました。現場作業のほうではそんな難しくないといった感じですが、設計も今までの当初の設計、面積は変更ないということですが、面積は変更ないけれども、例えば中身の部分でいろいろと普通の基礎工事と違うので、そういった変更というのはあるのかどうかお聞きしたいと思います。

田口係長 今回基礎の工法を変えるということで、構造計算が少し仕方が変わります。その中でももしかしたら柱の位置が少し変わるとか、柱の本数が少し変わるとかというのはあるかもしれないですが、部屋とか間取り自体は変えない方針で今のところ考えています。

阿部委員長 分かりました。先ほども質問の中でもありましたように、島民にとってはかなり待っているということですので、できる限り、今年中ですよ、入札執行していただけるよう今後各課と調整していただきたいと思えます。

ほかないですか。いいですか、村上委員、舟見委員は。(なし。の声) なければ、これで終わりたいと思いますので、よろしいですね。(はい。の声) それでは、以上をもちまして文教厚生常任委員会を終了いたします。ありがとうございました。